



新しい福島県総合計画の検討状況について

福島県 企画調整部 総合計画課

平成21年2月

現在の総合計画

「うつくしま21」

計画期間：平成13年度（2001年度）～平成22年度（2010年度）

福島県がめざす将来像はこのような姿です。[第1編 基本構想]

基本目標

地球時代にはばたくネットワーク社会

ともにつくる美しいふくしま

21世紀初頭の主要課題

本県の特徴

新しい世紀の時代認識

県づくりの理念

- 一人ひとりが大切にされ、いきいきと生活できる社会の形成

いのち・人権・人格の尊重

- 持続的発展が可能な地域社会の形成

自然と共生する環境負荷の少ない社会の形成

独自の歴史・文化・個性を尊重した地域づくりの推進

県づくりの理念とは？

新しい世紀にふさわしい社会システムの構築に向け、県民・民間団体、市町村、県が連携・協力しながら効果的に県づくりを進めていくために共有する理念です。

21世紀の「ふくしま」のイメージ

- 人** 多様で主体性を持った個性が躍動し、その能力を十分に発揮できる「ふくしま」
- 暮らし** 暮らしの豊かさをより積極的に味わうことのできるゆとりある「ふくしま」
- 産業** 新しい時代にふさわしい創造的で活力ある社会が展開する「ふくしま」
- 環境** 自然と共生する地球にやさしい「ふくしま」
- 地域** 一人ひとりの積極的な参加で地域の個性を磨く、魅力あふれるふるさと「ふくしま」

2010年の県民社会の姿

人口と経済の姿

総人口 209万～214万人

一人当たり県民所得 332～349万円

県民の暮らしを表す代表的な指標

31の指標を設定

県はこのような施策に取り組みます。[第2編 基本計画]

重点施策体系

『県づくりの理念』が示す新しい世紀の価値観（「いのち・人権・人格の尊重」や「自然との共生」など）を基調とする社会の実現に向け、県が重点的に取り組む施策を示しています。

基本施策体系

『21世紀の「ふくしま」のイメージ』に示された「人」「暮らし」「産業」「環境」を基本施策体系の柱とし、その将来イメージの実現をそれぞれの柱の目標としています。そして、「人」と「地域」を支えるものとして補項目に位置付けた「基盤」を含めた5つの柱に沿って、県の施策を総合的・体系的に示しています。

調和のとれた7つの生活圏づくりを進めます。[第3編 地域構想]

地域づくりの基本目標 一人ひとりの参加で個性を磨く、魅力あふれるふるさと「ふくしま」－多極ネットワークの新たな展開－

広域連携

地域別構想

相互連携による生活圏の展開戦略

新しい福島県総合計画の基本的な考え方

1 計画策定の背景

○ 社会経済情勢の急激な変化

人口減少、高齢化の急速な進行
→ 県の活力維持に大きな懸念

食料、エネルギー問題の顕在化
→ 県内産業、県民生活に影響

地球温暖化をはじめとする環境
問題の深刻化
→ 地球温暖化が身近な問題に

・・・など

早急な対応が
必要

○ 新たな対応やさらなる対応が必要と考えられる主な課題

地域の
活力維持・向上

安全・安心
の確保

地球的観点に
立った環境の保護
・エネルギー対策

人づくり・
地域づくり

・・・など

2 新しい計画の考え方

(1) 計画期間

○ 長期的な視点の必要性

長期的な社会経済情勢への対応
(人口減少、食料、資源エネルギー問題、環境問題)

長期間にわたる視点が必要な取り組み
(次代を担う人づくり、地域づくり)

子どもたちが親世代となるまでの将来を展望したうえで、豊かな福島県づくりを進めていくことが必要。

○ 柔軟な施策展開の必要性

急速な社会経済情勢変化への対応 (米国発の金融危機を発端とする世界的な経済不況の進行など)

急激な社会経済情勢の変化に対しても、時機に応じて柔軟な施策展開を図ることが必要。

【計画期間】 30年程度を展望した、計画期間5年の計画とする。

(2) 計画の性格

新しい計画の性格は、

- ① 県と県民がそれぞれの果たすべき役割を分担しながら、目指すべき本県の姿を実現するために共有する指針を示すものであるとともに、
- ② 県がその役割のもとに実施する主要な施策を示すものとする。

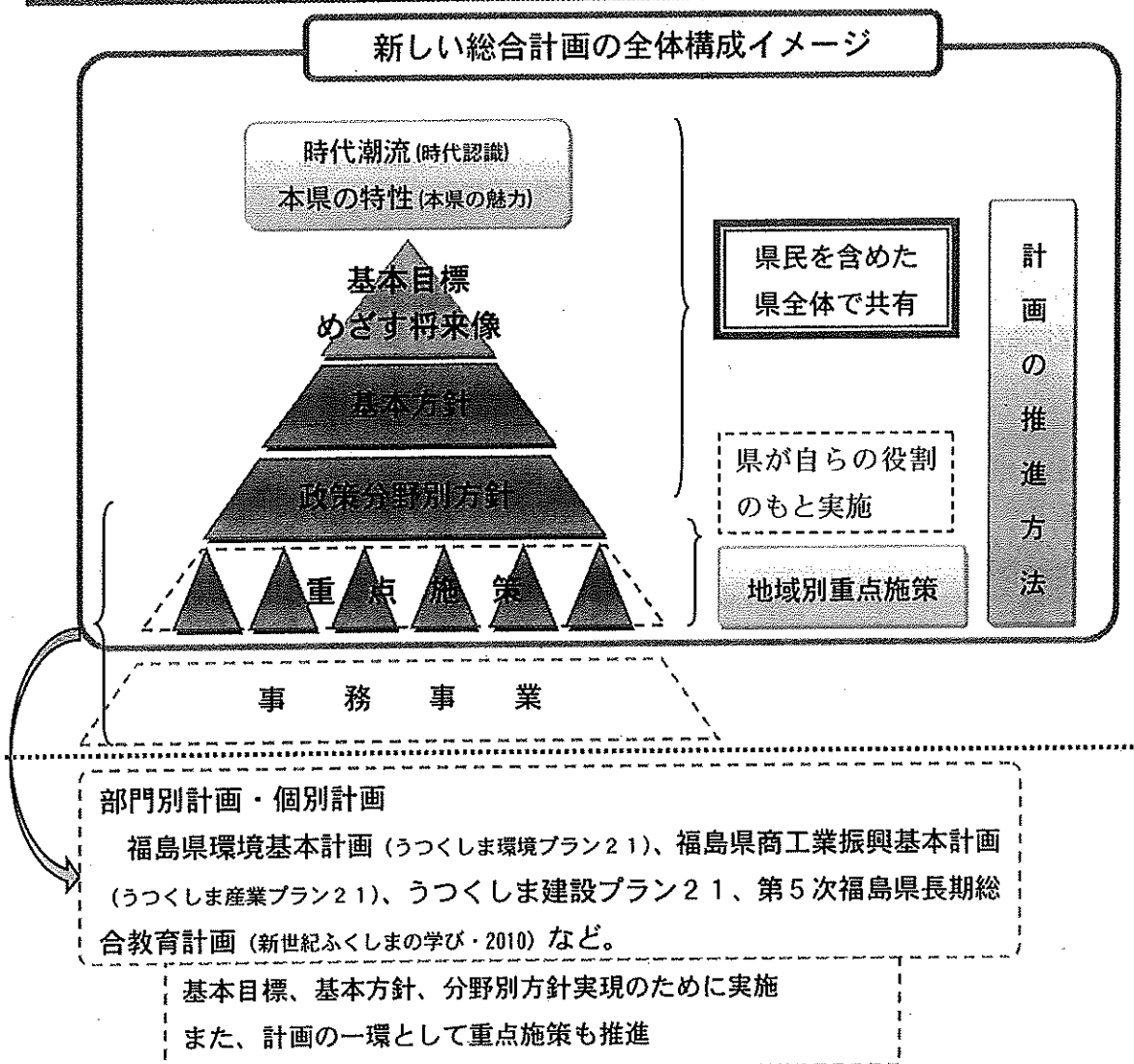
(3) 計画の目指すべき方向性

新しい計画において目指すべき方向性としては、厳しい状況、時代潮流が見通される中において、県民生活の安全・安心を守り、県民が将来に夢と希望を持てるような豊かな福島県づくりを実現するためのものとしていく。

(4) 計画の構成

新しい計画においては、次の点に留意する。

- ① わかりやすさの重視、よりコンパクトな内容
- ② 県が優先的に行う取り組みの明確化
- ③ 県で策定している部門別計画や個別計画との役割分担



(5) 政策課題への対応にあたっての視点

新しい計画における政策課題に対応していく上では、以下の点に留意する必要がある。

- ① 県民、民間団体、市町村、県などさまざまな主体による県づくり
- ② 限られた財源の効果的な活用
- ③ 広域的な取り組みの推進
- ④ 相互に関連する政策課題に対応した施策の構築、展開
- ⑤ 計画の実効性を確保するための進行管理

「めざす将来像」の展開イメージ

本県の魅力

※ 本県の特徴から本県の価値（魅力）となる要素を抽出する。

- 多様性
- つながり
- ゆとり
- 安全
- 資源

時代認識

※ 時代潮流を踏まえて今後の時代で求められる考え方を導き出す。

- 多様性の尊重
- つなぐこと・支え合うことの重要性
- 世代を超えたつながりの必要性
- 新たなライフスタイルの広がり
- 大量生産型産業から独自性・付加価値の高い産業の育成へ
- 環境や自然と向き合う産業育成の重要性

本県としてこれから大事にしたい考え方

※ 本県として大事にしたい考え方（姿勢）を示す。

- 多様性の尊重
- 多様な特性をつなぐことによる新たな価値の創造
- 豊かな自然に包まれたゆとりあるライフスタイルの深化
- 地元資源の再認識・誇りの醸成・磨き上げ
- 自己実現とチャレンジ
- 次の世代につないでいくことの意識

県づくりにあたっての基本的な姿勢

※ 県全体で共有する、基本目標の背後にある、本県としてこれから大事にしたい考え方（姿勢）をまとめたもの

- 【魅力の再認識・磨き上げ】
- 【多様性を生かした総合力の発揮】
- 【自己実現可能な豊かな社会に向かったのチャレンジ】

基本目標

県全体で共有する基本目標

※ 県づくりにあたっての基本的な姿勢をキャッチフレーズ的に示したもの

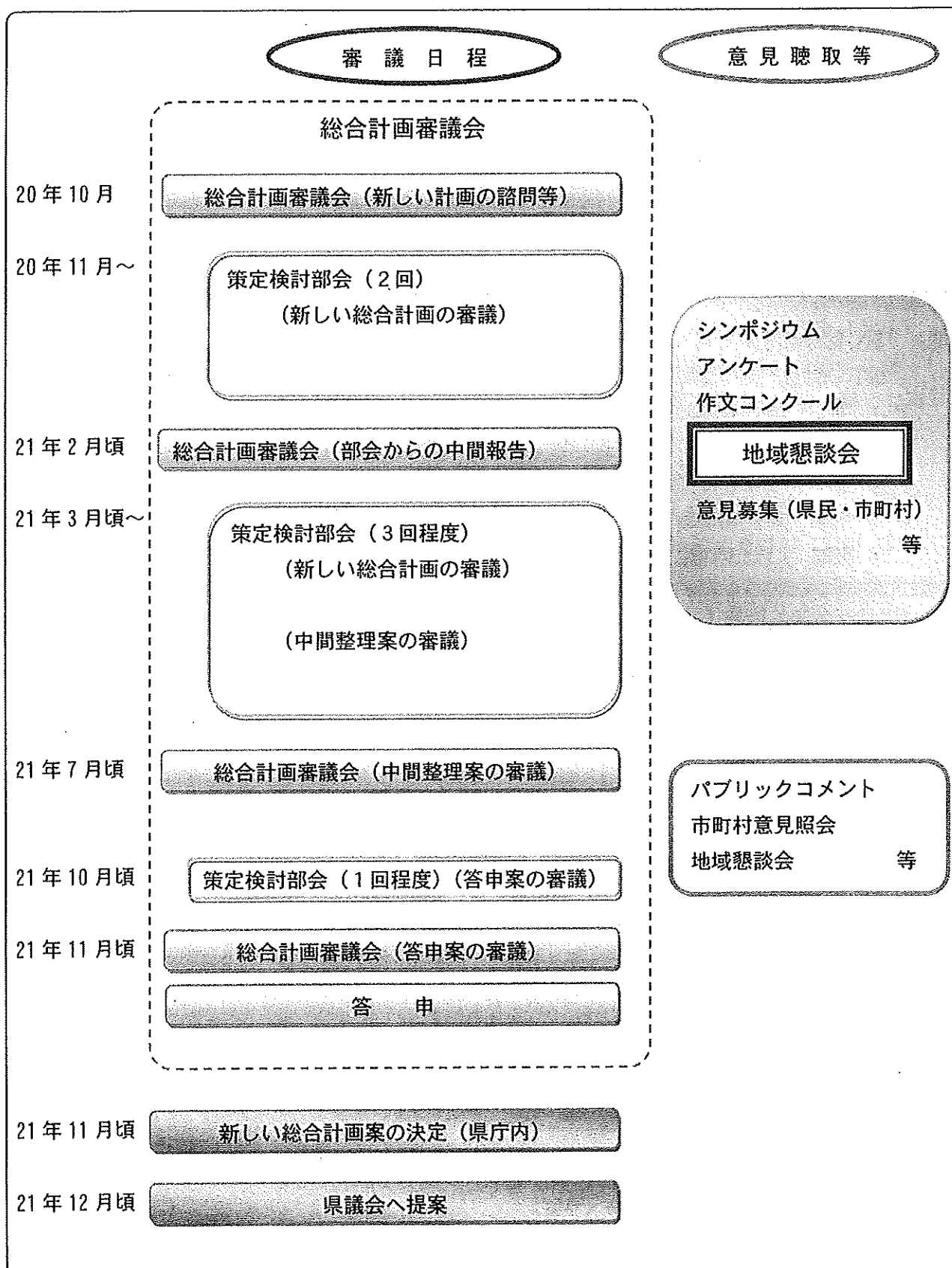
めざす将来像

※ 県づくりにあたっての基本的な姿勢、基本目標を受けて、県が政策的に実現を目指したい分野ごとの将来を掲げる。

※ 「いきいき」、「あんしん」、「つながり」などのキーワードを用いることや県政運営の基本方針「活力」、「安全・安心」、「思いやり」を用いることが考えられる。

「県づくりの基本方針」へ展開

策定スケジュール概要（案）



県民等への広報・意見聴取方法について

1 一般県民対象

(1) ホームページ

計画策定過程を公表するとともに、電子メールによる意見募集を行う。

(2) シンポジウム（3地域）

新しい総合計画策定に向けて、県民の意識喚起を図るとともに、参加県民を対象としたアンケート調査や意見交換を実施するため、講演会及びパネルディスカッションを行う。

① 郡山市（1/8(木) ビッグパレットふくしま中会議室）

② 会津若松市（1/9(金) 会津アピオ展示ホール）

③ いわき市（1/15(木) いわきアリオス音楽小ホール）

参加者数：430名（3会場合計）

(3) 「ふくしまの未来を考える」地域懇談会（4地域）

新しい総合計画の策定に当たり、ふくしまの未来について県民と審議会委員の意見交換を行い、新しい総合計画に反映させる。

① 県北地域（2/2(月) 道の駅ふくしま東和）

② 県中・県南地域（2/2(月) 白河合同庁舎）

③ 会津・南会津地域（2/3(火) 下郷ふれあいセンター）

④ 相双・いわき地域（2/5(木) 富岡町文化交流センター「学びの森」）

(4) パブリックコメント〔予定〕

中間整理案について、広く県民から意見を募集する。

(5) 地域懇談会②（7地域）〔予定〕

パブリックコメントの一環として、中間整理案の説明、県民と審議会委員の意見交換を行う。

2 児童、生徒、学生対象

(1) 作文コンクールの開催

小学生、中学生を対象に「未来のふくしま」について作文を募集する。

応募総数：1,231作品

(2) アンケート調査

高校生、大学生を対象に、地域に対する愛着、県内への定着意識、本県の将来について希望すること等についてアンケート調査を実施する。

高校生アンケート有効回答者数：1,125人

大学生アンケート回答者数：882人（県内大学794人、県外大学88人）※1月末時点

3 市町村対象

(1) 市町村意見照会①〔予定〕

重点施策の検討にあたり、市町村から意見聴取を行う。

(2) 各市町村長と知事との意見交換〔予定〕

(3) 市町村意見照会②〔予定〕

中間整理案について市町村から意見聴取を行う。